

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ツクイ 札幌稲穂
(ユニット名)	秋田娘
所在地 (県・市町村名)	札幌市手稲区稲穂三条4丁目5-37
記入者名 (管理者)	前田 威己
記入日	平成 21年 7月 14日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社の理念を元に事業所の職員で考えた理念がありその理念を常に見える位置に設定して頭に入れながら入居者様の介護を行っている	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員で考えた理念なので、共有できるように理念を記載した紙をカードサイズにして、職員がそれぞれ携帯し常に見れる状態にしている	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事業所開設時には、近所への挨拶や説明会を行った 運営推進会議や、ご家族への手紙などで日常の様子や活動を報告しているが、理念について、あまり触れた事がない	○ 回覧板や町内会の行事へ積極的に参加して、その中で基本理念を説明して、その内容を元にグループホームで、具体的に、どのように活動しているかを説明できるようにする
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方とは、玄関先やクリーンアップ活動時などに、挨拶をして顔を覚えていただいている また、運営推進会議などで、話す機会をつくっている	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議や町内会の清掃・行事などへ参加し、事業所で行う夏祭に参加をして頂くなどの交流に努めている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	週1回のクリーンアップ活動をしており、町内周辺近隣のゴミ拾い、除雪などを行っている	○	クリーンアップ活動でゴミ拾い・除雪などを行っているが、地域の高齢者への貢献としては不足しているので、もっと具体的な活動や協力できることなどを考えていきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価での不足している部分、出来ていない部分について、業務内容や書式についての見直しを、ミーティングで話し合い、どのようにすれば、円滑に進めていけるかを検討している	○	検討実施した結果、改善されているか評価期間を定めて改善に取り組んでいきたい (例 3ヶ月ごとに)
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に一度、会議を開きグループホームでの現状報告(日常の様子、行事内容、事例発表など)している。そこでの意見や、話合った内容などを参考にしている	○	会議での意見は、地域活動への情報源となり参考になる事が多い。これからも意見や話合った内容を、活かしていきたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者と、行き来する機会は少ない	○	運営に関して、疑問があれば相談に行くようにしたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	社内研修で勉強する機会を設けている	○	活用できるような、環境作りを考えていきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてのシンポジウム・講義への参加や職員同士において、日常やミーティングで、そのような事がないか話し合う機会をつくり、防止に努めている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、出来る限り分かりやすく簡潔に説明し、疑問点についても、ご家族・利用者様には、理解・納得できるように説明している また、解約時にも同様におこなっている	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画書の事後評価表に意見や不満を記入し、それに対し、ミーティングなどで、どのようにして改善していくかなど話し合いをしている	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、家族には、お手紙(日常の様子や体調)・おこづかい明細やレクなどの写真・グループホーム通信の報告などを郵送している 他、面会時や体調の異変などあった時は、その都度、電話・お手紙などで、直ぐに報告している	○ ご家族への手紙などの報告内容は、記録として残していきたい
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時には、必ず話をする機会を作っている また、運営推進会議での、ご家族の参加時には、事業所・職員などに対しての要望や意見を聴く機会を作っている	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案については、日常またはミーティング時に検討し、改善している	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	事前に利用者様の病院受診日、ご家族からの希望を把握し、それに対応可能な職員体制を調整している 他、緊急で利用者様の状況が変わり職員の人員不足時には、直ぐに、勤務体制を調整して対応している	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が働きやすい環境への配慮、及び、意見を言いやすい環境作りに努めている また、利用者様には、他の職員が積極的に働きかけ、ダメージを和らげるような配慮をしている	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修及び、シンポジウム・講演などに参加するよう、該当職員に指導している	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市及び、地区のグループホーム管理者会議・研修会に積極的に参加するよう指導している	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期健診・メンタルヘルスカンセリングの実施や、気軽に相談できる雰囲気づくりに努めている	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修の実施及び、資格取得を奨励し、技術・知識の向上とやりがいを感じられるよう努めている	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けてから、ご本人に会った時は、直接、ご本人と話しをしながら、今、困っている事などを聴き、その為に必要な対応を考えている	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けてから、ご家族等に話を聴くが、ご家族の立場として、現在、困っている事・不安な事を聴き、その部分に対して解決できる事や、対応が可能な事など聴くようにしている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、もともと、グループホームを希望されている方達なので、申し出がないかぎり、特に他のサービスも考慮した対応はしていない	○	相談を受けた時点では、グループホームを希望されていても、今の時点で、本当に必要とされているかなど、本人やご家族の状況を見極めて、他のサービスなども、視野に入れた対応をしていきたい
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームを利用される際は、事前にご本人やご家族が、見学に来られたり、こちらから面会に行ったりしており、本人の気持ちや意思を聴きながらサービスを開始し、入居するまでは、同じ職員が顔を見せて少しずつ馴れ親しんでいけるようにしている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、一方的に介護するのではなく、本人の気持ち(感情や表情)などを考慮しながら接している。しかし、一緒に過ごしているが、支え合うような関係を築くまでには至っていない	○	一方的な介護ではなく、本人と過ごす中で、本人の感情や、そこから感じた事など本人の立場になって考え共感できる関係作りをしていきたい
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係では、本人が入居されてから家族としての悩みや喜びなど、時々、話をされている方もおり、その内容を聴くということで、家族の気持ちを少しでも共感できるよう努めている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	基本情報や、ご家族からの情報により、今までの家族関係を理解して、その関係を崩さないように家族が面会に来られやすい、連絡をしやすい環境作りに努めている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	基本情報や、ご家族からの情報により、今までの馴染みの人や、場所についての関係を理解して、馴染みの人が面会に来られやすい、連絡しやすい環境作りに努めている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	各利用者様の性格や、利用者様同士の様子など、日頃から観察して、把握しており、食堂での席や、レク・行事など、ふれあう時間を作り、より良い関係を築けるよう努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>		
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書を基本にして、一人ひとりの日中から夜間の様子の变化や、日常の状態を毎日、具体的に記録している 実際に実践した内容も記録に残して、介護計画の見直しをしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	?		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	?		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ディサービス・小規模多機能を備えた複合施設なので、ご本人の意向や必要についての検討はしている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議などを通して、意見・情報交換を行っている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1度の往診、定期的な受診で対応しているが、日常で、体調不良など変化があった時などは、電話で状況を報告して、相談のうえ受診するなどしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>今後も、ご本人・ご家族・ケア関係者と良く話し合い、今までの本人の環境や生活習慣などを、なるべく崩さない対応に努めたい</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	「排泄がしたい…」という本人のニーズに合わせて、その都度、トイレに、お連れする また、排泄パターンや習慣を把握するため、排泄チェック表を活用して、自尊心を傷つけないようにトイレにお誘いしている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は、買い物日(水・木・日)以外を入浴日にして入浴されているが、時間帯については、すべて午後からにしている利用者様の希望通りに時間帯や曜日を、合わせてはいない ただ、入浴を楽しんで頂けるよう入浴剤を使用して、リラックスして頂いている	○	ご本人のニーズに合わせた対応ができるよう、職員の体制作りやミーティングなどで話し合う機会を作っていききたい さらに、入浴日・時間帯についても検討していきたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	グループホームでの生活習慣を把握し、その日の体調に合わせて、休んでいただいたりしている 夜間の様子も把握して、眠れない状況が続く事があれば、主治医に相談するなど、その都度、対応を検討している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の役割について、それぞれの生活習慣や力に合わせて、食器拭きや、洗濯物たたみなど、お手伝いして頂いているが、年齢や病気の変化により出来なくなっていくことが多く、なかなか実施できていない	○	認知症の進行や年齢、病気の悪化により、今まで出来ていた事が、できなくなったりしていることが多くなっている 今、出来る事を最大限に活かせる支援をミーティングなどで検討し、実施していきたい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で、お金を持っていたいという方に関しては、個人で管理していただいているが、基本的には事務所で管理しており、必要時に、ご本人へお渡しして買い物を、お手伝いしている	○	買い物の外出時には、出来る限り、ご本人が支払するよう心掛けている
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的な外出行事の他に、天気の良い日など、外へ散歩へ行くなどしている しかし、本人の希望で、いつでも外へ行けるような環境や体制ではない	○	希望に沿えるような、体制づくりを検討していきたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に合わせて外出行事を企画しており、入居者様には、「何処に行ってみたいか？」など希望を聴いている ご家族には、行事や外出レクについて事前に連絡をしているが、実際には一緒に出かける事はありません		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で、家族や知人に連絡を取りたいという事があれば、いつでも電話、手紙での対応はできる 現在は、ほとんど希望される方はいない		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の方には、月に1度のお手紙や行事の案内などいつでも面会に来れるような関係を築き、面会に来られた時は、本人の近況報告をしながら、次にも面会に来れやすいような雰囲気作りをしている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回、カンファレンスを行い、身体拘束をしないために、どのようなケアをしていくなか、職員同士、日々、考えながら取り組んでいる また、研修も実施している		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には、鍵をかけていない 玄関は、夜間以外、鍵をかけていない		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日々の生活で、入居者様が居室やフロアで過ごされている時は、常に様子観察を行い、誰が何処に居るかなど意識しており、転倒がないように環境を整えたり事故が起こらないように対応策を考えている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁やハサミなど、危険物を使用するときは、必ず職員が付いて見守れる状態で行っている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒や誤薬など、あってはいけない事だが、起きてしまった後に、どうして起きてしまったのか？ どうしたら防げるのか？ など、事故後にミーティングなどで話し合う機会をつくり対応策を考えている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入居者様の体調不良や急変時の対応について、手順書や、フローチャートによる表を貼って、常に対応ができる状態にしている。しかし、応急手当や処置については、定期的な訓練はしていない	○	緊急時や、事故発生時の対応について、慌てずに動ける正確な動きができるなど、定期的に訓練を行い、事故や緊急時のイメージが出来るような体制作りに取り組んでいきたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は行っているが、定期的には行っていない。避難方法についても、ほとんど訓練はしていない	○	いつ起きるか分からない事なので、実際に起きた時に、入居者様をスムーズに避難できるように、訓練を定期的に行い地域の方とも避難方法、経路について話し合い連携をとりたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについて、転倒の可能性、誤飲、誤嚥など身体的、精神面などから危険性が高い時は、その都度、危険を防ぐための対応策を説明し、理解していただいたうえで同意を得ている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定や、表情・顔色・行動などで様子観察し異変時には、直ぐに、看護師を呼んだり病院へ相談するなどの対応をしている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について各入居者様のファイルに服薬情報を入れており、いつでも見れる状態にある。薬によっては、症状に気を付けなければならないものもあり、様子観察を行ったり、常に、変化に気を付けている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	なるべく自然排便を心掛けている。食事面では、食物繊維の物を取り入れたり、水分チェック表を活用し水分が不足している入居者様の飲水を工夫している。また、毎日のリハビリ体操など運動への参加を促している		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝、夕食後は必ず、口腔ケアを行っているが、昼食後に関しては、嚥下状態で飲みこみが難しい、ご自分の歯がある人などで、全員におこなっていない	○	ほとんどの入居者様が、義歯を装着している人ばかりなので、嚥下状態などにかかわらず、全員が毎食後、出来るように対応していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	会社の栄養士が作成した献立を中心に、調理をしており、栄養バランスも考慮しています 水分量に関しては、水分チェック表を活用しており、一人ひとり、摂取量を確認して、水分不足にならないように、配慮している		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	会社で作成された感染症予防に関するマニュアルがあり、常に、見れるように事務所に置いてある インフルエンザが流行したが、マニュアルを参考に対応した		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所用品は必ず消毒するなど、衛生面には、気を付けている 食材に関しては、2～3日に一度の買い物で、常に、新鮮な物を調理している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りにブランタンやクリスマスなどを飾り、家庭的な雰囲気を作っている 他、玄関からホームまでの廊下には、写真や飾り付けをして、温かい雰囲気作りに努めている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーには、数か所にソファを置いてあり、食堂や居間から、少し離れた場所に置くことにより比較的、静かな環境を作っている 壁には、季節の飾り付けをして、温かい雰囲気を出している		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーには、所どころにソファを置き、各入居者が休める場所を作っている その中で、仲の良い入居者様や、時には一人で過ごせるように環境を整えている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される前の説明でも、本人が使い慣れた物を持って来ていただくようにしたり、出来る限り本人が混乱なく過ごせるような居室作りを家族と相談している		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は、24時間回っている また、尿臭や生ゴミの臭い、室温に関しても、入居者様にあった室温を常に気お付けている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室・トイレ・浴室などに手すりを付けたり、通路などに転倒の可能性のある障害物(廊下に車イスや椅子など)などを、置かないなど、安全に配慮している		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各入居者様の今、できる事とできない事を見極めて、できる事に対しては、お手伝いしながら今、持っている力を発揮していただき、できない事に対しては、無理強いせずに対応している		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りは、隣が住宅でベランダなどもなく、活動できる場所は少ない しかし、近所の住宅の庭には、花を育てている方が多く、散歩時には、眺めることで楽しまれている		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

全利用者様とまではいかないが、数名のご家族様とはよく連絡を取っている。日頃より面会に来られ、利用者様の通院時などでホームに希望されること、これからのホームでの生活・病気についての相談など、ご家族様と話し合う機会を作り良い関係を築いている。